

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月14日
【四半期会計期間】	第45期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	野村マイクロ・サイエンス株式会社
【英訳名】	Nomura Micro Science Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 千田 豊作
【本店の所在の場所】	神奈川県厚木市岡田二丁目9番8号
【電話番号】	(046)228-5195
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 日向 潤
【最寄りの連絡場所】	神奈川県厚木市岡田二丁目9番8号
【電話番号】	(046)228-5195
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 日向 潤
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期 連結累計期間	第45期 第3四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	8,258,048	10,012,478	13,288,483
経常損失()(千円)	820,556	291,804	12,885
四半期(当期)純損失()(千円)	632,864	258,407	106,223
四半期包括利益又は包括利益(千円)	431,610	139,097	161,075
純資産額(千円)	7,568,428	8,041,224	8,121,797
総資産額(千円)	16,008,644	15,767,872	15,773,013
1株当たり四半期(当期)純損失金額 ()(円)	67.57	28.86	11.37
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	47.1	50.7	51.3

回次	第44期 第3四半期 連結会計期間	第45期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当 り四半期純損失金額()(円)	12.55	5.70

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表」の「連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更」をご参照下さい。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要などを背景に、景気は緩やかに回復しているものの、円安に伴う輸入原材料の上昇、新興国経済の先行き懸念等一部不透明な状況となりました。

当社グループの業績に影響を及ぼす半導体業界は、Semiconductor Equipment and Materials International（SEMI）が発表した2013年第3四半期の半導体製造装置出荷額は、パソコン需要低迷等を背景に前年同期比16%減となりました。また、液晶関連企業は中国での液晶パネルの需給バランス悪化から在庫が増加しているため、引き続き設備投資を手控える状況が続きました。

このような状況下、当社グループは海外では半導体・液晶関連企業、国内では製薬関連企業を中心に積極的な営業活動を展開してまいりました。

水処理装置につきましては、国内の製薬関連企業や韓国の半導体及び液晶関連企業から受注した超純水製造装置、並びに台湾で受注した液晶関連企業の廃水回収装置の工事が進捗したことにより、売上高は57億9千9百万円（前年同期比39.2%増）となりました。メンテナンス及び消耗品につきましては、国内は半導体関連の工場稼働率低下等を背景に減少となる一方、韓国を中心とするアジアで増加したことにより、売上高は36億5千万円（同3.7%増）となり、その他の事業の売上高は5億6千2百万円（同1.8%減）となりました。

利益面につきましては、一部の超純水製造装置の仕様変更による原価増や工期延長に伴う外注費の増加等により、販管費の削減に努めたものの営業損失となり、為替相場が円安になったことから為替差益3億7千5百万円を計上いたしましたが、経常損失及び四半期純損失となりました。

以上の結果、売上高は100億1千2百万円（同21.2%増）、営業損失は6億8千6百万円（前年同期は9億8千5百万円の営業損失）、経常損失は2億9千1百万円（前年同期は8億2千万円の経常損失）、四半期純損失は2億5千8百万円（前年同期は6億3千2百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本

日本におきましては、国内の製薬関連企業や韓国の半導体及び液晶関連企業から受注した超純水製造装置の工事が進捗し、売上高は71億9千9百万円（前年同期比55.8%増）となりましたが、一部の超純水製造装置の仕様変更による原価増や工期延長に伴う外注費の増加等により、営業損失は4億9千4百万円（前年同期は5億6千6百万円の営業損失）となりました。

アジア

台湾の液晶関連企業から受注した廃水回収装置及び韓国の半導体関連企業の超純水製造装置の工事が進捗したことにより、売上高は19億1千6百万円（同15.6%増）となり、原価及び販管費の増加等により、営業損失は1億円（前年同期は4億7千1百万円の営業損失）となりました。

アメリカ

半導体関連企業の受注済み超純水製造装置の工事が進捗し、売上高は8億9千6百万円（同54.7%減）となり、工期延長に伴う外注費等の増加により、営業損失は9千万円（前年同期は5千2百万円の営業利益）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2億7千万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループは、主要顧客企業である半導体及び液晶関連産業の設備投資動向により、需要の変動が避けられない状況にあります。また、近年では半導体及び液晶パネルの価格下落に伴う事業採算の悪化から、投資競争の激化とも相俟って、事業の選択と集中による半導体及び液晶メーカーの優劣が鮮明となりつつあり、当社グループの経営成績が、主要顧客企業の競争力により影響を受ける可能性があります。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、顧客ニーズへのきめ細かな対応を通じて、競争力の高い販売先を確保するとともに、営業力の強化及び受注採算の維持・改善が重要な経営課題であると認識しております。

加えて、今後の受注拡大を図るためには、継続的な研究開発による競合他社との差別化、新商品の開発を強化するとともに、優秀な人材の確保と育成が急務となっております。

また、当社グループの海外売上高比率は概ね60%となっており、その地域も韓国・台湾を中心とするエリアから、中国・アメリカ・ベトナム等へと広域化していることから、顧客満足の向上による継続的な受注と迅速な対応を実現させるためには、広域化した現場管理を担う技術者の確保と人材育成が重要であると認識しております。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金需要は、主に装置受注に伴う原材料及び消耗品等の仕入や製造費用、販売費及び一般管理費等の運転資金のほか、有形・無形固定資産などへの設備資金があります。これらの資金需要に対して、自己資金及び長期・短期借入金にて対応しておりますが、借入金につきましては、主要取引銀行と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しており、事業遂行に必要な資金を確保しております。

(6) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境、顧客ニーズ及び入手可能な情報に基づき、最善な経営方針を立案するよう努めており、アジアの純水市場でリーディング・カンパニーの地位に立つことを中長期的な目標としております。

しかしながら、水処理装置の中心である超純水装置については、既述のとおり主要顧客企業である半導体及び液晶関連産業の設備投資動向により需要の変動が避けられないことに加え、近年では半導体・液晶パネル価格の下落に伴う事業採算の悪化から、一部の半導体・液晶パネルメーカーの淘汰が進んでいることから、今後も持続的な成長が見込まれる韓国・中国・台湾を中心とするアジアでの競争力強化、並びに超純水以外の一般水処理の強化及び当社グループの事業領域の拡大、周辺ビジネスへの展開による長期安定収益の確保が不可欠であると認識しております。

また、顧客の環境に対するニーズを的確に捉え、環境関連分野を強化することが急務であるとの認識から、これまで培ってきた超純水に関する技術・ノウハウを活かし、半導体及び液晶周辺事業に関わるRSシリーズ（レジスト剥離剤）、メトレート（金属除去モジュール）、シリコン回収リサイクル装置等超純水製造装置以外の商品の市場投入に加え、環境に配慮した高付加価値製品の投入に積極的に取り組んでいく所存であります。

この観点から、近年アジアを中心に海外での拠点展開により営業力の強化を図っておりますが、併せて優秀な人材の確保と育成による同業他社との差別化が急務であると認識しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,152,000	10,152,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	10,152,000	10,152,000	-	-

(注) 普通株式は完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式であります。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	10,152,000	-	2,236,800	-	1,968,194

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 1,265,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 8,885,400	88,854	（注）
単元未満株式	普通株式 1,600	-	-
発行済株式総数	10,152,000	-	-
総株主の議決権	-	88,854	-

（注）権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式であります。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
野村マイクロ・サイエンス株式会社	神奈川県厚木市岡田二丁目9番8号	1,265,000	-	1,265,000	12.46
計	-	1,265,000	-	1,265,000	12.46

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	専務執行役員 国内営業本部長兼海外 営業本部、技術開発本 部、業務本部担当	取締役	専務執行役員 開発本部長兼国内事業 本部、海外営業本部、 業務本部担当	八巻 由孝	平成25年10月1日
取締役	執行役員 エンジニアリング本部 長兼品質管理部長	取締役	執行役員 技術本部長兼品質管理 部長	依田 博明	平成25年10月1日

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,651,660	4,330,377
受取手形及び売掛金	6,063,241	4,398,658
商品及び製品	64,496	49,499
仕掛品	408,977	1,084,994
原材料及び貯蔵品	159,562	162,581
その他	738,617	1,291,410
貸倒引当金	25,612	23,791
流動資産合計	12,060,942	11,293,732
固定資産		
有形固定資産	2,099,459	2,704,670
無形固定資産		
のれん	41,248	14,663
その他	281,679	219,436
無形固定資産合計	322,927	234,099
投資その他の資産	¹ 1,289,683	¹ 1,535,370
固定資産合計	3,712,070	4,474,140
資産合計	15,773,013	15,767,872
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,600,152	1,376,331
短期借入金	3,864,850	3,784,905
未払金	1,030,809	1,184,272
未払法人税等	129,464	43,603
製品保証引当金	128,152	151,309
工事損失引当金	771	47,630
賞与引当金	103,198	47,689
役員賞与引当金	6,567	10,394
資産除去債務	58,725	63,015
その他	301,693	585,996
流動負債合計	7,224,387	7,295,147
固定負債		
退職給付引当金	130,592	119,498
役員退職慰労引当金	83,228	111,178
資産除去債務	18,414	14,458
その他	194,593	186,364
固定負債合計	426,828	431,500
負債合計	7,651,216	7,726,648

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,236,800	2,236,800
資本剰余金	2,011,694	2,011,694
利益剰余金	4,160,462	3,791,811
自己株式	486,603	606,603
株主資本合計	7,922,352	7,433,701
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,393	59,802
為替換算調整勘定	155,751	505,846
その他の包括利益累計額合計	168,144	565,649
新株予約権	31,300	41,873
純資産合計	8,121,797	8,041,224
負債純資産合計	15,773,013	15,767,872

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	8,258,048	10,012,478
売上原価	7,107,776	8,474,217
売上総利益	1,150,272	1,538,261
販売費及び一般管理費	2,136,218	2,224,561
営業損失()	985,945	686,299
営業外収益		
受取利息	15,762	18,969
受取配当金	6,502	7,514
受取家賃	10,243	23,837
業務受託料	1,523	-
為替差益	158,793	375,344
その他	11,811	11,067
営業外収益合計	204,636	436,733
営業外費用		
支払利息	30,947	34,386
持分法による投資損失	3,580	6,205
その他	4,718	1,647
営業外費用合計	39,247	42,238
経常損失()	820,556	291,804
特別利益		
固定資産受贈益	3,000	-
新株予約権戻入益	-	1,496
特別利益合計	3,000	1,496
特別損失		
固定資産売却損	-	22
固定資産除却損	228	14
支払補償費	¹ 33,036	-
ゴルフ会員権評価損	-	16,384
その他	2,903	2,583
特別損失合計	36,168	19,004
税金等調整前四半期純損失()	853,725	309,312
法人税等	220,860	50,905
少数株主損益調整前四半期純損失()	632,864	258,407
四半期純損失()	632,864	258,407

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	632,864	258,407
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,104	47,409
為替換算調整勘定	171,978	347,394
持分法適用会社に対する持分相当額	1,171	2,700
その他の包括利益合計	201,254	397,504
四半期包括利益	431,610	139,097
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	431,610	139,097
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

なお、黔東南州凱創水資源環保科技工程有限公司は、当第3四半期連結会計期間において設立いたしました
が、実質的な営業開始には至っていないため、連結の範囲から除いております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
投資その他の資産	161,970千円	161,907千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 支払補償費

支払補償費は引渡し完了した配管工事の事故に対する過失割合による費用であります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
支払補償費	33,036千円	-千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	171,087千円	212,309千円
のれんの償却額	37,393	26,212

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月20日 定時株主総会	普通株式	112,558	12	平成24年3月31日	平成24年6月21日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月20日 定時株主総会	普通株式	110,243	12	平成25年3月31日	平成25年6月21日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成25年6月24日開催の取締役会における決議に基づき、自己株式300,000株を取得いたしました。この結果、第1四半期連結累計期間において自己株式が120,000千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式は606,603千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	日本	アジア	アメリカ	計	
売上高					
外部顧客への売上高	4,620,482	1,658,346	1,979,220	8,258,048	8,258,048
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,116,185	139,977	-	1,256,163	1,256,163
計	5,736,667	1,798,324	1,979,220	9,514,211	9,514,211
セグメント利益又は損失()	566,794	471,307	52,156	985,945	985,945

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	日本	アジア	アメリカ	計	
売上高					
外部顧客への売上高	7,199,255	1,916,739	896,483	10,012,478	10,012,478
セグメント間の内部売上高又は振替高	501,051	623,296	-	1,124,347	1,124,347
計	7,700,306	2,540,035	896,483	11,136,825	11,136,825
セグメント損失()	494,987	100,431	90,881	686,299	686,299

(注)セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額	67円57銭	28円86銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	632,864	258,407
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	632,864	258,407
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,365	8,953
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	第2回新株予約権 新株予約権の個数 1,785個 普通株式 178,500株

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月4日

野村マイクロ・サイエンス株式会社

取締役会 御中

太陽 A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大村 茂 印
--------------------	-------	--------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	西田 光宏 印
--------------------	-------	---------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	金子 勝彦 印
--------------------	-------	---------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている野村マイクロ・サイエンス株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、野村マイクロ・サイエンス株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。